

第1章 これまでの経緯と文化ホールの体系的な考え方

別紙 1

(1)基本構想の検討経緯

①福岡市文化芸術振興ビジョン(平成20年策定)

- ◆ 市民会館のあり方について、平成23年をめぐりに基本的な考え方を示し、平成25年には、具体的な内容を公表することを明記。

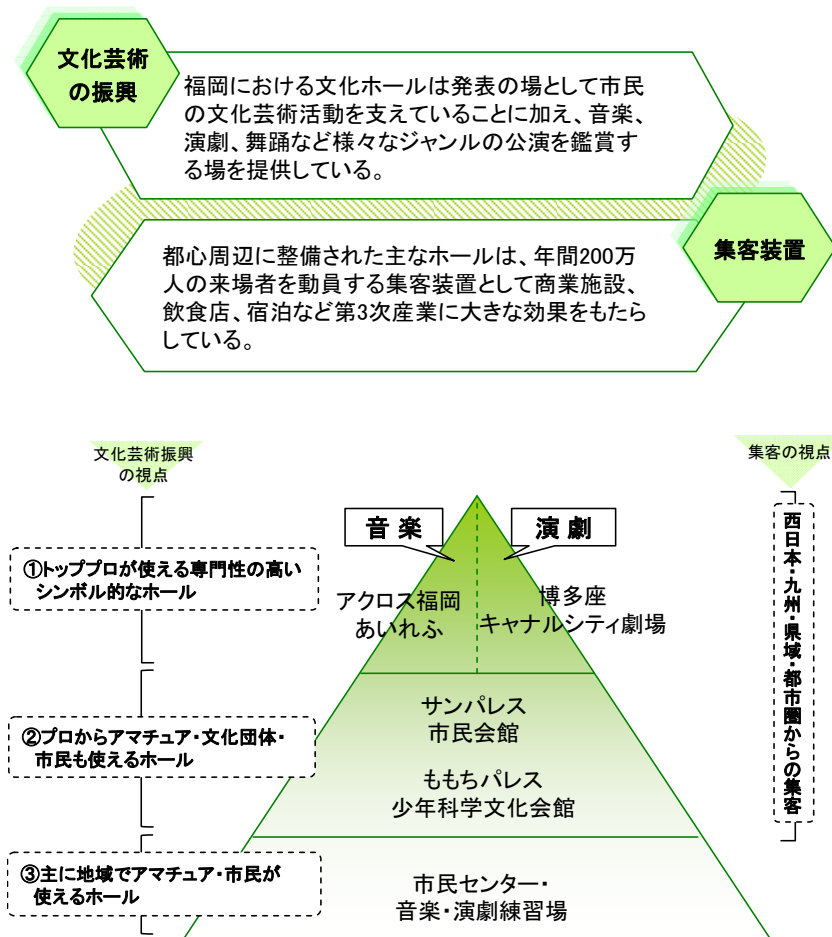
②福岡市拠点文化施設専門委員会の提言

- ◆ 平成22年7月に有識者等からなる拠点文化施設専門委員会を設置。
- ◆ 平成23年9月「福岡市拠点文化施設への提言」を受ける。

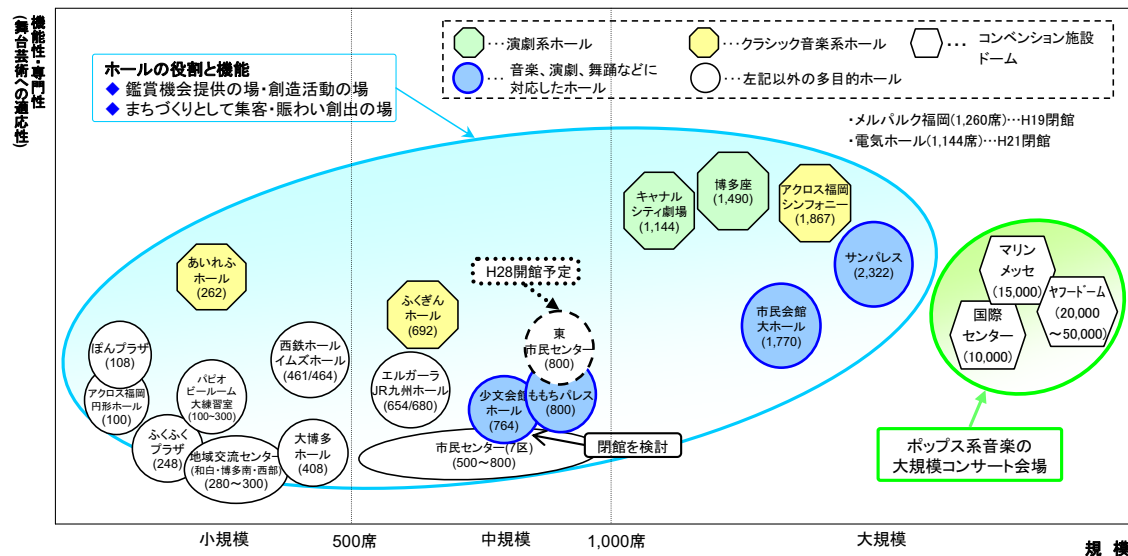
③福岡市拠点文化施設基本構想の策定

- ◆ 提言を踏まえ基本構想案を作成し平成23年12月に市民意見募集を実施。
- ◆ 平成24年3月に基本構想を策定。

(2)福岡市における文化ホールの役割と体系的な考え方



(3)規模・機能からみた文化ホールの分布状況



①福岡市における文化ホールの整備状況

- ◆ 大規模及び中規模ホールは主に行政によって整備されている。
- ◆ 民間ホールは幅広い用途を想定した小規模の多目的ホールが多い。

大規模(1,000~3,000席)

- ◆ トッププロが使える専門性の高い専用ホールは一定の整備がなされてきた。
- ◆ 市民会館とサンパレスはともに貸館として中心的な役割を担っており利用率が70%を超えている。
- ◆ 市民会館は老朽化し設備の劣化が著しく、サンパレスも築30年を超え今後の維持修繕について課題を抱えている。

中規模(500~1,000席未満)

- ◆ トッププロが使える演劇や音楽などの専門性の高いホールがない。
- ◆ 中規模ホールは文化芸術活動・発表や鑑賞の場として市民の利用が多い。

小規模(500席未満)

- ◆ 官民によって多様なホールが整備されているが文化芸術に適した200~300席規模のホールが不足している。